

バーナード・グリーンハウス マスタークラス報告

去る3月23日、29日、30日の3日間、奈良と東京でJCS主催による「バーナード・グリーンハウス マスタークラス」が行われました。JCS NEWS第2号のインタビューでもご紹介したように、ニューヨークチェロ協会の創立メンバーであり初代会長のグリーンハウス氏による、チェロとピアノトリオのマスタークラスの様子を、当日参加していた会員の方々にレポートしていただきました。



アマチュアチェリストが見たチェロ・マスタークラス 3/29 石島 栄一 (R-016)

まず、全体としては非常によかった!聴講者としてその場にいらることができて、本当によかったと思いました。これで「入場料無料」なんてまずは主催者のJCSに感謝です。

次に受講生ですが、皆さん学生でした。誰を取っても上手くてビックリでした。一体どこを直すところがあるのだろう、と思っていると御大が「体全体で弾け」とか「ここのビブラートが」とか「気合が伝わりすぎる」とかまあ好き勝手なじゃなかった的確なポイントで受講生がどんどん変わっていく、それは聴いていてまたビックリでした。4人のうち特に2人は別人に変わりましたね。50分間の1レッスンで御大の言うことや弾く音を聴いて今までの自分から変わる、という受講生の能力にも脱帽です。

さて、自分の能力はさて置き、私もアマチュアですがチェロ弾きの端くれですから御大の目の付け所をいくつかピックアップしてみましょう。

<弓と左手は一緒>

なんのこっちゃ、こんな表現では全然わからんぞ、済みません。音の表現にはその両方を適切に組み合わせて出したい音を作っていくのだという、言葉で書くとは漠然ですね。

<背中から弾け>

右手の動きは背中から肩、ひじ、弓へ伝えるのであって、腕だけで弾くのではない。

<センプレ適切なビブラート>

表現したい内容に合ったいろいろなビブラートの種類を教えてくださいましたが、それとは別に、パッセージの中で左手の指の都合でビブラートがかからない音や取って付けたようなビブラートがついた音が無いように。又ビブラートは押さえている指以外は脱力がかつ早すぎるビブラートや怠慢なビブラートにならないように。

<繰り返しのフレーズは違うフレーズ>

そう、「二回共同じように弾いてはいかん」という誰もが知ってる内容ですが、一

つの音だって二回続けば繰り返しですよ、その表現を変えるという至難の原則。

<変化>

同じ調子で喋り続けてはいけない、という「頭では分かっている」これがとても重要なのです。御大は何度も強調されました。

<フォイヤー・マンフィンガリング>

拡張形を取らず、ポジション移動と手首を回して指板をたたく指使い。説明困難、見た人だけが知っている。

まだまだいろいろとポイントを頂いたのですが、後は極秘事項です。いや、本当は紙面の関係でここまでです。

御大の指摘と指導で受講生が変わると何故か「聴いている自分まで変わって上達してしまった錯覚」に陥ることができるのですが、その後自分で音を出してみても現実に返ることもできます。よし、現実を少しでもレベルアップするために「いい音に執着心を持つ楽しみ」を心に、仕事の無い日は練習に励むぞ。

トリオマスタークラス報告(3月30日ヴォリーズホール)

開場定刻6時半前にお客さんが並んでいたの予定を早めて開場。会場には120のイスがきれいに並んで席の準備が整っている。正面にピアノと椅子が二脚。少し離れた向かって右に同じく椅子が三脚。これは、グリーンハウスさん用と彼のチェロを立てかけるため。そして、もう一つは今夜の大事な脇役、通訳さんのため。若い学生さんが多いかなと思っていた予想に反し、結構年輩の方もいらっしやる。

一方控え室の方では緊張した二組の

受講生が、落ち着かない様子で部屋の中や廊下を歩いたり、あるいは手を洗いに行ったり。

定刻七時にストラディヴァリウス・パガニーニを持ってグリーンハウス先生が通訳を伴って登場。

クラスが始まり音が鳴り出す。先生はじっと椅子に腰掛けた。その内徐々に音楽に合わせて先生の手が動き出す。やがてリズムを取る様に首を振ったり、体を動かしたり。さらに、段々体を乗り出して生徒さんの演奏にじっと聴き入る。

杉山 英明(R-102)

演奏が終わるとやおら立ち上がって生徒さんの所へ。「うん、僕のCDの演奏の影響を受けているかな?」と半分冗談で言いながら。

もう一度頭から演奏。今度は途中で止めながら、身振り手振りよろしく、声を出してメロディを唄い、「もうほんのちょっと間を置いて」とか「ppをもっと小さく」、「余韻や残響を大事に」、「動きを持たせて」などなど細かい所を指導される。しかしそれは如何にも暖かく諭すような調子で。言われた生徒さんも一生懸命素直にやり

直す。

先生自身が「自分の庭」と言われる分野の、トリオだけあって「もともとお互いに音を聴き合い、目を向け合い、誰が主役で誰が脇役かその辺をわきまえて」とか「テンポが変わるというのはただ単にテンポが変わるのではなくて、作曲家の気持ちに変化があってそれ故に変わるんだからそこまで考えて」とかのアドヴァイス。

途中で15分ほどの休憩の後にまた一組。こうしてまた同じ様に親切丁寧に指導される。終わった後の受講生に感想を求めたら「とっても難しかった。でも見方というか、可能性が広がった様な気がする」、「技術を生かしてどうやって音楽を表現するか、その辺が解った様な気がした」、

奈良秋篠音楽堂チェロマスタークラス

公開レッスンの類に行くのは初めてでした。下手の前の方に座ったら、譜面台で受講生の弾き方がよく見えませんでした。失敗。

受講生は、相愛大・大阪音大・京都芸大の、全員四回生の女性でした。

受講曲はそれぞれ、ベートーヴェンのソナタ三番、ドヴォルザークのコンチェルト、ブラームスのソナタ一番の、第一楽章でした。

最初の受講生はチェロを始めたのが15歳ということもあるのか、テクニク的にまだまだ課題がありそうで、レッスンでも基本的なテクニクを終始やっていました。

次の人は小さい体格でチェロと格闘するようにがんばって弾きこなしていました。個人的にはこの人の音色が大

「間を取るということで音楽の効果を高めるといふか、或いは本質を表すといふかその辺が掴めた様な気がする」、「何しろとっても良い経験が出来た」、「とても楽しい雰囲気だった」、「人柄の良さ、暖かさを感じた」などなどが返ってきた。

インタビューをするという又と無い機会に恵まれた私には、「皆さん技術的には非常に立派です。だからその技術を活かしてどうやって作曲家がいわんとしたことを聴衆に伝えるか、それが大事なんですね。」「音楽を作るっていうのは聴衆にメッセージを伝えることですよ。つまり話をする事と同じで、相手に伝わらなくては。ただ一人でブツブツ意味の無いことをいってもしようがないでしょう。言葉は国によって色々違うけど、音楽はインターナ

変好みでした。あれだけ弾けたら気持ちいいだろうなあ。

最後の人は学内の定期演奏会でシェーマンのコンチェルトを弾いていた時にも思ったのですが、大変上手な方で、グリーンハウスさんも、音楽的センスは抜群、と誉めていました。

グリーンハウスさんの英語は（私がニューイングランド英語に慣れているということだけではなくて）ほんとにわかりやすかったです。時々通訳の方の日本語がどうも合っていないように思われました。直接英語の方を注意して聴いている方がいいかもしれません。

とくに印象に残っていることは、

1. ヴィブラートは腕全体で幅広くかけて楽器をよく鳴らすこと。フィンガリングでかかったりかからなかったり

ショナルだからそれを利用して。ただ機械的に正確に音を刻んだりしても駄目なんです。私は32年間トリオを組んでやってきましたが、同じ曲を何遍やっても、その前に必ず仲間と、「ここはどう解釈するか」と話し合いながらやってきました」と言われた先生の言葉が印象に残ったが、そうなる迄には矢張り今日の受講生の皆さんにも多くの年月が必要だろう。そう、「亀の甲より年の功」。(因みにインタビューは65歳)

奈良でのマスタークラスを皮ぎりに3回のクラスを持たれ、10日間に亘る日本滞在を終えた先生は「もう日本を離れなきゃならないと思うととても残念です」という言葉を残して翌日、日本を離れられました。

小牧 暢夫 (S-005)

ということがないように。

2. 指を変えるときは、同じポジションであっても指だけで動かさず、手全体を使う。

3. フレージングには特に頭を使い、同じことを続けて聴衆を飽きさせるようなことがあってはいけない。

などでしょうか。

あと各曲の弾き方についてのアドバイスがいろいろありました。

ドヴォルザークの高くして難しい重音進行では、カザルスに教わったフィンガリングは…、と言って披露していましたが、ちゃんとさらったことのない私には、一回見ただけでは覚えられませんでした。

● コンクール情報

第2回アントニオ・ヤニグロ国際チェロコンクールジュニア部門

開催地：クオアチア・チャコヴェチ市

開催期間：1998年9月1～6日

応募資格：1979年以降に生まれた者、国籍不問。生年によって、4つのカテゴリーに分かれる

応募メ切：1998年6月15日必着

※応募要項はJCS事務局にあります。詳細はお問い合わせください。

第9回札幌ジュニアチェロコンクール

開催地：北海道札幌市・札幌パームホール

開催日：1998年8月2日(日)

応募資格：1978年8月1日以後に生まれた者に限る。国籍不問。

応募メ切：1998年6月末日(消印有効)

※応募要項はJCS事務局にもあります。詳細はお問い合わせください。

ドイツ・クロンベルクにおけるチェロマスタークラス

※加藤美千代さん(R-108)からの情報です。聴講も可とのこと。

期間：98年9月25日～10月2日

場所：ドイツ・クロンベルク(フランクフルト・アム・マイン近郊)

講師：D. ゲリングス、B. グリーンハウス、F. ヘルマーソン

参加資格：受講生は30歳まで。

参加費用：受講生-350DM、聴講生-200DM

申込メ切：8月22日必着

詳細は以下にお問い合わせください。事務局にも申込書が1部ありますので、コピーはお送りできます。

Internationale Kammermusik-Akademie Kronberg e.V.

Attention to: Almut Latscha

Königsteiner Str. 5, D-61476 Kronberg, GERMANY

Tel. +49 (6173) 95 00 85/Fax. +49 (6173) 95 00 86/e-mail

IKACello@aol.com

日本チェロ協会 第1回総会についてのお知らせ

4月に名簿をお送りしたときにもお知らせいたしましたように、第1回日本チェロ協会総会を以下のように開催いたします。今回は、昨年11月の設立総会の時に話題になりました役員人事と、チェロ協会が行っていく予定のサロンやマスタークラス、クリニックそのほかの事業に関する事、97年度の決算、98年度予算などを議題にします。

大変申し訳ありませんが、時間その他の関係から、今回は、事務局ではレセプションや交流会、アンサンブルなどは予定しておりません。あしからずご了解くださいますようお願いいたします。

日時：1998年6月16日(火) 19:00～

場所：お茶の水スクエア2階 ルーム6

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-6 お茶の水スクエア

連絡：カザルスホール企画室/アウフタクト内 日本チェロ協会事務局

電話 03-3295-7586 FAX 03-3293-5257

(以下は、4月にお送りした総会案内の再録です)

【役員推薦など】

- 1、会長としては、今回の役員任期が短すぎる事もあり、引き続き第2回総会までは、発足時の役員にはなるべく責任を果たしていただきたいとの希望があります。
- 2、会則では現行役員が次期役員を推薦することになっておりますが、設立総会で提案のあった、アマチュアメンバーの参加などを考慮する必要があるとの意見を尊重し、今回は広く役員推薦を呼びかけます。
- 3、役員に推薦したい人がいる場合には、5月20日までに、事務局までお申し出ください(複数の方からの推薦の場合には全員のお名前もお書きください)。
- 4、総会前日(6月15日)に、評議委員会を開き、次期役員メンバーを協議し、総会に提案いたします。

【その他提案事項について】

- 1、日本チェロ協会が行っていく事業について、具体的なお提案などがありましたら、5月末までに事務局まで提案いただけると幸いです。
- 2、総会のやり方や時期、チェロサロンなどへのご提案も是非お願いします。

【総会への出欠について】

- 1、会場の準備の都合もありますので、総会への出欠をお知らせください。また、委任状についても受け付けます。ご連絡は、電話、はがき、ファックスいずれでもかまいませんので、なるべく総会の10日前までにお知らせくださると幸いです。下記様式もお使いください(委任をされる場合には不要部分を線で消し、名前のところに印鑑を押してください)。よろしくお願いたします。

以上

● 会員主催・関係の演奏会情報/その他のチェロ演奏会情報

○ミッシェル・マイスキー

6/18(木)、19(金)19時 NHKホール H.ワルベルク指揮NHK交響楽団
サン＝サーンス チェロ協奏曲 問：
N響ガイド03-3465-1780

6/20(土)19時 武蔵野市民文化会館 Pf/ダリア・ホヴォラ ベートーヴェン：
チェロソナタ全曲(前期) 問：武蔵野市民文化会館 0422-54-2011

6/22(月)19時 王子ホール Pf/ダリア・ホヴォラ サン＝サーンス/チェロソナタ、ドビュッシー/チェロソナタ 問：
王子ホール 03-3567-9990

6/23(火)津リージョンプラザ
6/24(水)19時 サントリーホール Pf/ダリア・ホヴォラ ベートーヴェン/

魔笛変奏曲、チェロソナタ第1番、第4番、第5番 問：神原音楽事務所 03-3586-8771

6/25(木)山梨県 増穂町文化会館
6/26(金)19時 横浜みなとみらいホール 問：横浜みなとみらいホール 045-682-2000

6/27(土)19時 バロックザール 曲目：
ドビュッシー/ソナタ ニ短調 他 入場料：10000円(全席指定)

○平尾雅子 ヴィオラ・ダ・ガンバリ サイタル～マラン・マレの世界～

曲目：マレ/2本のヴィオールのためのプレリュードとシャコンヌ長調、スペインのフォリア、組曲ト短調、田園の宴 ロンド

「宝石」、つむじ風、膀胱結石手術図、ドレ/マレ氏を偲んで、ほか

出演：ガンバ/平尾雅子、石川かおり、リュート/野入志津子、Cem/芝崎久美子

6/19(金)19時 イシハラホール 入場料4000円

○金木博幸チェロ・リサイタル(ピアノ/清水和音)

曲目：バッハ/無伴奏チェロ組曲第3番、ベートーヴェン/チェロソナタ第4番、ショスタコーヴィチ/チェロソナタ、他
6/20(土)19時 札幌コンサートホール小ホール 入場料：4000円(全席指定)

(コンサート情報続き)

○山本裕康チェロ・リサイタル(ピアノ) 諸田由里子

曲目: ベートーヴェン/チェロソナタ第4番、バッハ/無伴奏チェロ組曲第4番、ヤナーチェク/おとぎ話、ベートーヴェン/チェロソナタ第5番
6/25(木)19時 東京オペラシティ・リサイタルホール 入場料: 4500円
問: (株)1002 03-3264-0244

○上村昇・小山実稚恵 デュオコンサート

曲目: シューベルト/アルペジオーネソナタイ短調、他
6/28(日)19時 イシハラホール 入場料: 4500円

○『ベルリン・フィルの12人のチェリストたち』

1998年7月1日(水) 浜松市教育文化会館/2日(木) 白石キューブ/3日(金) 都留市文化ホール/4日(土) 千葉県白井町文化会館/5日(日) 足利市民会館/6日(月) 栃尾市公民館/7日(火) 新潟テルサ/8日(水) 横浜みなとみらいホール/9日(木) 福島市音楽堂/10日(金) 武蔵野市民文化会館/11日(土) 東京・サントリーホール
※詳しくは各ホールにお問い合わせください。

○第3回全日本ビバホールチェロコンクール(募集は終了)

第1次審査 7月22, 23日/第2次審査 24日/本選 26日 会場: 養父町公民館ビバホール 問: 0796-64-1141 ホームページ: <http://member.nifty.ne.jp/miyanaga/viva/vindex.html> (7/22から)

事務局から

チェロ関連情報大募集!

各地のチェロコンサート、会員主催・関連演奏会、コンクール、マスタークラス、初心者向けコース、講習会、楽器・関連イベント、その他チェロに関する情報をお待ちしています。会報誌および開設予定のホームページで紹介します。日程、場所、主催者、連絡先、主な内容、紹介文をまとめ、情報メ切り日までに事務局へお送り下さい(郵送、またはFAX03-3293-5257、Eメール QGA01776@niftyserve.or.jp)。

お近くのホールなどでチェロの演奏会などを見つけたら、そのチラシを事務局にお送りください。

次号の情報メ切りは、7月31日(金)。9月5日以降のイベントを紹介します。今後の発行スケジュールは下記の通りです。

ホームページはただいま間借り中

お約束のJCSホームページがまだ立ち上がっておりません。名簿もステッカーもできたので、次の大仕事はこのホームページですが、目下会員の谷中哲夫さんのご厚意により、非公式ホームページが試験運用中です。ご存じの方も多と思いますが、谷中さんは「Oh! That Cello」のオーナー。JCSホームページは目下この中に間借りしております。一度お出ましくくださいませ。URL: <http://www02.so-net.ne.jp/~cellist/vcello/vcello.html>

会員からの投稿大歓迎!!

チェロ作品小論や演奏会の感想、グループの紹介、仲間集め、個人消息、チェ

ロよもやま話等々ありましたら、ぜひお寄せください。載せるページは有り余ってます! 会報はまだまだ発展途上、あなたの投稿が新コラムの発端になるかも。

ボランティア、これも大募集!

前号の悲鳴のような編集後記(悲鳴そのものでしたが)を読んで、いろいろな方からお手伝いの申し出をいただきました。近々みなさんに具体的なお願いをしたいと思います。とはいえ、兼業農家ならぬ兼業事務局は、協会の様々な業務をいつでもお手伝いくださる方々を必要としています。不定期でも結構です。詳しくは事務局・箕口(03-3295-7586)まで。

- ・会員事務ボランティア
週1回~月1回程度、午後ないしは夜1,2時間/会員入会事務、諸経費の伝票処理/経験問わず/コンピュータ作業の経験あれば大歓迎!
- ・会報発送作業ボランティア
月1回、月末の土曜日/会報誌の発送作業(タックシール印刷、折り、封筒詰め、のりづけ)/経験全く問わず ※次回発送作業は8月29日(土)
- ・会報誌記者ボランティア
第1回総会のレポートをしてくださる方を求めています。当日出席可能な方、よろしく!

JCS事務局に強力な助っ人! パソコンついに来る!!

JCS評議委員・山崎伸子さんの夫君・円光寺雅彦さんから、パナソニックのレッツノートをいただきました。スペック最大までグレードアップされたこの小さな大物のおかげで、仕事の能率アップ間違いなしです(狭い事務所のどこでも仕事ができます)。紙面を借りて、「本当にありがとうございました!」(礼!)

	原稿・情報メ切り	発送作業	掲載情報
98年9月号	98年7月31日(金)	8月29日(土)	98年9月5日(土)以降
98年12月号	98年10月30日(金)	11月28日(土)	98年12月5日(土)以降
99年3月号	99年1月29日(金)	2月27日(土)	99年3月6日(土)以降
99年6月号	99年4月23日(金)	5月29日(土)	99年6月5日(土)以降

編集後記

自主研修のつもりでしばらく海外へ行っていました。留守中ご迷惑おかけしました。記事集めを若干おさぼりしたせいか、第1面の充実性に比べ、情報ページがちょっと手薄になってしまいました。事務局で調べられるのには限界があるので、どうぞ身近な情報をどんな形でも結構ですでお知らせください。特に各地域の演奏会情報やイベント情報は貴重です。海外在住の方からも歓迎です。今後の「チェロサロン」へのご要望もお待ちしております。(み)

日本チェロ協会会報 JCS NEWS 第3号

【発行日】1998年5月31日

【発行所】〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-6 お茶の水スクエアA館 カザルスホール企画室・アウフタクト内
日本チェロ協会

電話 03-3295-7586 FAX 03-3293-5257

E-mail: QGA01776@niftyserve.or.jp

【発行人】堤 剛 (日本チェロ協会会長)

【編集】日本チェロ協会事務局

【編集協力】リュウカンパニー